



RADIUS コマンド

この章は、次の項で構成されています。

- [radius-server host](#) (2 ページ)
- [radius-server key](#) (4 ページ)
- [radius-server retransmit](#) (5 ページ)
- [radius-server host source-interface](#) (6 ページ)
- [radius-server host source-interface-ipv6](#) (7 ページ)
- [radius-server timeout](#) (8 ページ)
- [radius-server deadtime](#) (9 ページ)
- [show radius-servers](#) (10 ページ)
- [show radius-servers key](#) (11 ページ)

radius-server host

radius-server host グローバルコンフィギュレーションモードコマンドを使用すると、RADIUS サーバホストを設定できます。指定した RADIUS サーバホストを削除するには、コマンドの **no** 形式を使用します。

構文

```
radius-server host {ip-address / hostname} [auth-port auth-port-number] [acct-port acct-port-number] [timeout timeout] [retransmit retries] [deadtime deadtime] [key key-string] [priority priority] [usage {login / dot1.x / all}]
```

```
encrypted radius-server host {ip-address / hostname} [auth-port auth-port-number] [acct-port acct-port-number] [timeout timeout] [retransmit retries] [deadtime deadtime] [key encrypted-key-string] [priority priority] [usage {login / dot1.x / all}]
```

```
no radius-server host {ip-address | hostname}
```

パラメータ

- **ip-address** : RADIUS サーバホストの IP アドレスを指定します。IP アドレスは、IPv4、IPv6、または IPv6z アドレスを使用できます。
- **hostname** : RADIUS サーバホスト名を指定します。IPv4 アドレスへの変換のみがサポートされています。（長さ：1～158 文字、ホスト名の各部分の最大ラベル長は 63 文字です）
- **auth-port** *auth-port-number* : 認証要求のポート番号を指定します。ポート番号を 0 に設定すると、そのホストは認証に使用されません。（範囲：0～65535）
- **acct-port** *acct-port-number* : アカウンティング要求のポート番号。0 に設定すると、ホストはアカウンティングに使用されません。指定しない場合、ポート番号はデフォルトの 1813 になります。
- **timeout** *timeout* : タイムアウト値を秒単位で指定します。（範囲：1～30）
- **retransmit** *retries* : 再試行の再送信の数を指定します（範囲：1～15）
- **deadtime** *deadtime* : RADIUS サーバがトランザクション要求によって省略される間の期間を分単位で指定します。（範囲：0～2000）
- **key** *key-string* : デバイスと RADIUS サーバ間のすべての RADIUS 通信の認証および暗号化キーを指定します。キーは RADIUS デーモンで使用する暗号に一致している必要があります。空の文字列を指定するには、"" と入力します。（長さ：0～128 文字）。このパラメータを省略した場合は、グローバルに設定されている **radius** キーが使用されます。
- **key** *encrypted-key-string* : **key-string** と同じですが、キーは暗号化された形式です。
- **priority** *priority* : サーバを使用する順序を指定します。0 は最高の優先度です。（範囲：0～65535）

- **usage** {**login** | **dot1.x** | **all**} : RADIUS サーバ使用タイプを指定します。次の値が可能です。
 - login** : RADIUS サーバをユーザログインパラメータ認証用として指定します。
 - dot1.x** : RADIUS サーバを 802.1x ポート認証用として指定します。
 - all** : RADIUS サーバをユーザ ログイン認証用と 802.1x ポート認証用として指定します。

デフォルト設定

デフォルトの認証ポート番号は 1812 です。

timeout が指定されていない場合は、グローバル値 (**radius-server timeout** コマンド) が使用されます。

retransmit が指定されていない場合は、グローバル値 (**radius-server retransmit** コマンド) が使用されます。

key-string が指定されていない場合は、グローバル値 (**radius-server key** コマンド) が使用されます。

usage キーワードが指定されていない場合は、**all** 引数が適用されます。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーションモード

使用上のガイドライン

複数のホストを指定するには、このコマンドはホストごとに使用されます。

例

次の例では、IP アドレス 192.168.10.1 の RADIUS サーバ ホスト、認証要求ポート番号 20、20 秒タイムアウト期間を指定します。

```
switchxxxxxx(config)# radius-server host 192.168.10.1 auth-port 20 timeout 20
```

radius-server key

radius-server key グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用すると、デバイスと RADIUS デーモン間の RADIUS 通信の認証キーを設定できます。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius-server key [*key-string*]

encrypted radius-server key [*encrypted-key-string*]

no radius-server key

パラメータ

- **key-string** : デバイスと RADIUS サーバ間のすべての RADIUS 通信に認証および暗号キーを指定します。キーは RADIUS デーモンで使用する暗号に一致する必要があります。(範囲 : 0 ~ 128 文字)
- **encrypted-key-string** : key-string パラメータと同じですが、キーは暗号化された形式です。

デフォルト設定

key-string は空の文字列です。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

次の例では、デバイスと RADIUS デーモン間のすべての RADIUS 通信の認証キーを定義します。

```
switchxxxxxx(config)# radius-server key enterprise-server
```

radius-server retransmit

radius-server retransmit グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用すると、ソフトウェアが RADIUS サーバ ホストのリストを検索する回数を指定できます。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius-server retransmit *retries*

no radius-server retransmit

パラメータ

- **retransmit** *retries* : 再試行再送信の回数を指定します (範囲 : 1 ~ 15) 。

デフォルト設定

ソフトウェアは RADIUS サーバ ホストのリストを 3 回検索します。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

次の例では、ソフトウェアがすべての RADIUS サーバ ホストを検索する回数を 5 回に設定します。

```
switchxxxxxx(config)# radius-server retransmit 5
```

radius-server host source-interface

radius-server host source-interface グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用すると、IPv4 アドレスが IPv4 RADIUS サーバとの通信用の送信元 IPv4 アドレスとして使用される送信元インターフェイスを指定できます。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius-server host source-interface *interface-id*

no radius-server host source-interface

パラメータ

- **interface-id** : 送信元インターフェイスを指定します。

デフォルト設定

送信元 IPv4 アドレスは、発信インターフェイスで定義され、ネクスト ホップ IPv4 サブネットに属する IPv4 アドレスです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

送信元インターフェイスが発信インターフェイスの場合は、ネクスト ホップ IPv4 サブネットに属するインターフェイス IP アドレスが適用されます。

送信元インターフェイスが発信インターフェイスでない場合は、送信元インターフェイスで定義された最小 IPv4 アドレスが適用されます。

使用可能な IPv4 送信元アドレスがない場合は、IPv4 RADIUS サーバと通信しようとする、SYSLOG メッセージが発行されます。

送信元インターフェイスとして OOB は定義できません。

例

次の例では、VLAN 10 を送信元インターフェイスとして設定します。

```
switchxxxxxx(config)# radius-server host source-interface vlan 100
```

radius-server host source-interface-ipv6

radius-server host source-interface-ipv6 グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用すると、IPv6 アドレスが IPv6 RADIUS サーバとの通信用の送信元 IPv6 アドレスとして使用される送信元インターフェイスを指定できます。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius-server host source-interface-ipv6 *interface-id*

no radius-server host source-interface-ipv6

パラメータ

- *interface-id* : 送信元インターフェイスを指定します。

デフォルト設定

IPv6 送信元アドレスは、発信インターフェイスで定義された IPv6 アドレスであり、RFC6724 に従って選択されます。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

使用上のガイドライン

送信元インターフェイスが発信インターフェイスである場合は、送信元 IPv6 アドレスはインターフェイスで定義され、RFC 6724 に従って選択された IPv6 アドレスです。

送信元インターフェイスが発信インターフェイスでない場合は、送信元 IPv6 アドレスは送信元インターフェイス上で定義され、宛先 IPv6 アドレスの範囲と一致します。

使用可能な送信元 IPv6 アドレスがない場合は、IPv6 RADIUS サーバとの通信を試行する際に SYSLOG メッセージが発行されます。

例

次の例では、VLAN 10 を送信元インターフェイスとして設定します。

```
switchxxxxxx(config)# radius-server host source-interface-ipv6 vlan 100
```

radius-server timeout

デバイスがサーバホストからの応答を待つ時間を設定するには、**radius-server timeout** グローバルコンフィギュレーションモードコマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius-server timeout *timeout-seconds*

no radius-server timeout

パラメータ

- **timeout** *timeout-seconds* : タイムアウト値を秒単位で指定します。(範囲: 1 ~ 30)。

デフォルト設定

デフォルトのタイムアウト値は 3 秒です。

コマンドモード

グローバルコンフィギュレーションモード

例

次の例では、すべての RADIUS サーバのタイムアウト間隔を 5 秒に設定します。

```
switchxxxxxx(config)# radius-server timeout 5
```


radius-server deadtime

radius-server deadtime グローバル コンフィギュレーション モード コマンドを使用すると、使用不可能な RADIUS サーバがトランザクション要求によって省略される時間を設定できます。これにより、サーバが使用不可能な場合の RADIUS の応答所要時間が改善されます。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

構文

radius-server deadtime *deadtime*

no radius-server deadtime

パラメータ

- **deadtime** : RADIUS サーバがトランザクション要求によって省略される間の間隔を分単位で指定します。(範囲: 0 ~ 2000)。

デフォルト設定

デフォルトのデッドタイム間隔は 0 です。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

例

次の例では、すべての RADIUS サーバのデッドタイムを 10 分に設定します。

```
switchxxxxxx(config)# radius-server deadtime 10
```

show radius-servers

show radius-servers 特権 EXEC モード コマンドを使用すると、RADIUS サーバ設定を表示できます。

構文

show radius-servers

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次の例では、RADIUS サーバ設定を表示します。

```
switchxxxxxx# show radius-servers
IP address  Port  Port  Time           Dead  Deadtime
              Auth Acc  Out   Retransmission time  status  Priority Usage
-----
172.16.1.1  1812 1813  125  Global        Global  Dead    1    All
172.16.1.2  1812 1813  102  8             Global  Up      2    All
Global values
-----
TimeOut: 3
Retransmit: 3
Deadtime: 0
Source IPv4 interface: vlan 120
Source IPv6 interface: vlan 10
```

show radius-servers key

show radius-servers key 特権 EXEC モード コマンドを使用すると、RADIUS サーバのキー設定を表示できます。

構文

show radius-servers key

コマンドモード

特権 EXEC モード

例

次に、RADIUS サーバのキー設定を表示する例を示します。

switchxxxxxx# show radius-servers key	
IP address ----- 172.16.1.1 172.16.1.2	Key (Encrypted) ----- 1238af77aaca17568f1298cced165fec 1238af77aaca17568f12988601fcabed
Global key (Encrypted) ----- 1238af77aaca17568f1298bc5476ddad	

```
show radius-servers key
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。